

クボタシーアイ株式会社 堺工場

1. 事業概要

住所	〒592-8332 堺市西区石津西町14-2	
従業員数 (協力会社)	168(9)名 (H26(2014).4.1現在)	
敷地面積	27600㎡	堺工場 (開発部・品質保証部・生産技術部 管更生事業ユニット含む)
事業内容	塩ビ管・継手、ポリエチレン管・継手の製造	



主要製品

水道配水用ポリエチレン管・継手、リブパイプ JWVA K144・K145 他

耐衝撃性硬質塩化ビニル管・継手、EXパイプ



工場変遷 (沿革)

昭和29年	(1954)	久保田鉄工(株)ビニルパイプ工場 設立 生産開始
昭和30年	(1955)	一般工業用管JIS指定工場認可
昭和31年	(1956)	継手生産開始
昭和32年	(1957)	水道用管および継手JIS指定工場 認可
昭和34年	(1959)	硬質ビニル電線管JIS指定工場 認可
昭和42年	(1966)	耐熱性塩ビ管(HT)生産開始、小田原工場 新設
昭和47年	(1972)	ゴム輪受口パイプ(SGR)生産開始
昭和48年	(1973)	石津加工・出荷センター完成
昭和51年	(1976)	合成管研究部 実験棟完成
昭和53年	(1978)	地中電力ケーブル用保護管 生産開始
昭和54年	(1979)	水道用ポリエチレン管JIS指定工場 認可、九州クボタ化成 設立
昭和58年	(1983)	PM優秀事業場賞 受賞
平成元年	(1989)	リブパイプ生産開始
平成 6年	(1994)	プラスチック管路技術センター完成
平成 7年	(1995)	臨海物流センター完成
平成10年	(1998)	ISO9001認証取得、石津西分工場 完成
平成11年	(1999)	ISO14001認証取得
平成14年	(2002)	国内初の離脱防止塩ビ管継手VN生産開始、EXパイプ(管路更正管)生産開始
平成16年	(2004)	ゼロエミッション達成
平成17年	(2005)	クボタシーアイ株式会社 設立
平成21年	(2009)	堺本工場を4月末で閉鎖、石津西分工場(工場名:堺工場に変更)に集約。

クボタシーアイ株式会社 堺工場

2.環境方針

ISO環境方針

クボタシーアイ株式会社 及び 株式会社九州クボタ化成は、合成樹脂を原料として、社会生活に必要な水道管、下水道管などのライフラインを社会に提供しています。その活動において、地球環境の保全が人類全体の課題であり、企業にとってその対応が重要な責務である事を認識し、環境保全に不断の努力を行います。

[理 念]

私たちは、地球規模で持続的な発展が可能な社会の実現をめざし、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を行います。

[方 針]

1. 製品の設計・開発、製造から出荷までの各段階において、環境保全に積極的に取り組みます。また、環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善する事によって、長期的で幅広い観点から環境負荷の継続的改善に努めます。
2. 社会の持続的な発展に寄与できる製品の開発ならびに製造を推進するとともに環境リスクの低減及び環境汚染の未然防止に努めます。
3. 私たちは、自然環境や生物多様性に配慮した企業活動に努めます。
4. 環境関連法、条例、協定及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し、取引先に対しても、環境保全活動への理解と協力を求めます。
5. この環境方針を実践するため、環境保全中期実施計画達成に向けて、その実施状況を定期的に確認し、環境マネジメントプログラム計画の見直しを行います。
6. この環境方針を、当社で働く人 及び 当社の為に働く人に周知させると共に、各人が日常生活においても環境に配慮した行動を行うよう、環境意識の向上に努めます。
7. 地域での環境保全活動への参画、支援に積極的に取り組み、地域との共生に努めます。またこの環境方針は、私たちの姿勢を理解していただくため、一般の人も入手可能とします。

平成26年6月1日

クボタシーアイ株式会社
製造部門 担当役員

山本 芳樹

ISO認証取得状況

平成11年 (1999)	ISO14001認証取得(審査機関:日科技連)
平成14年 (2002)	第一回 更新審査 受審
平成17年 (2005)	第二回 更新審査 受審(クボタシーアイ(株)で受審。2004年版に移行)
平成20年 (2008)	第三回 更新審査 受審
平成23年 (2011)	第一回 拡大・サーベランス兼拡大・更新審査(組織統合) 受審
平成26年 (2014)	第二回 サーベランス 受審

クボタシーアイ株式会社 堺工場

3.環境保全中期計画 目標及び実績

課題	取り込み項目	管理指標	基準年度	目標 2015年度	2013年度	
					実績	自己評価 ※4,5
地球温暖化の防止	CO2の削減	CO2排出原単位※2	2008	▲14%	▲10.0%	○
	省エネルギー	エネルギー使用原単位	2008	▲14%	▲15.5%	○
循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出原単位	2008	▲14%	▲53.0%	◎
		再資源化率※3	-	99.5%以上	99.9%	○
	水資源の節約	水使用原単位	2008	▲21%	▲57.5%	◎
化学物質の管理	VOC※1の削減	VOC排出原単位	2008	▲21%	▲62.5%	◎

※1 VOC(揮発性有機化合物)は、排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象としています。

※2 CO2排出量には非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は基準年度の値を使用します。

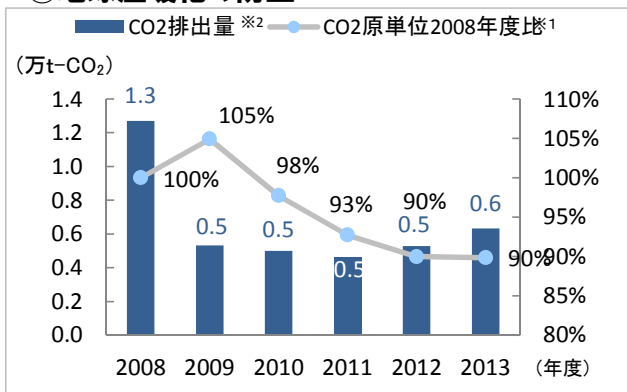
※3 再資源化率(%)=(有価物売却量+社外再資源化量)÷(有価物売却量+社外再資源化量+埋立量)×100
社外再資源化量には熱回収量を含みます。

※4 ▲は「マイナス」を意味します。

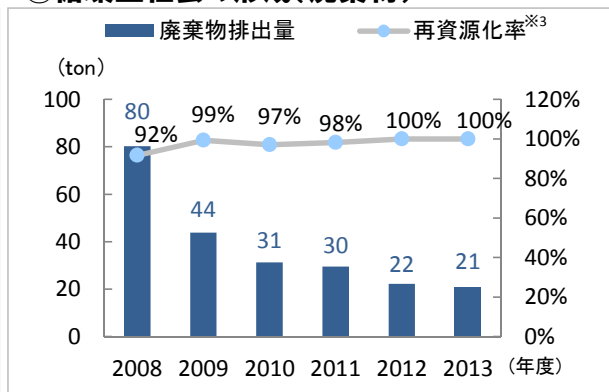
※5 自己評価の基準 ◎目標超過達成(目標を20%以上超過している場合) ○目標達成 △現状では未達成

4.環境パフォーマンス

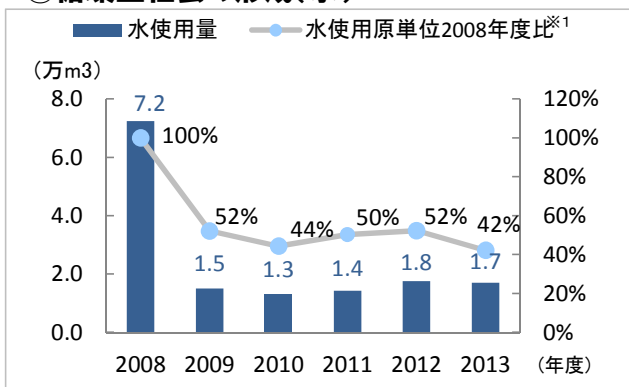
①地球温暖化の防止



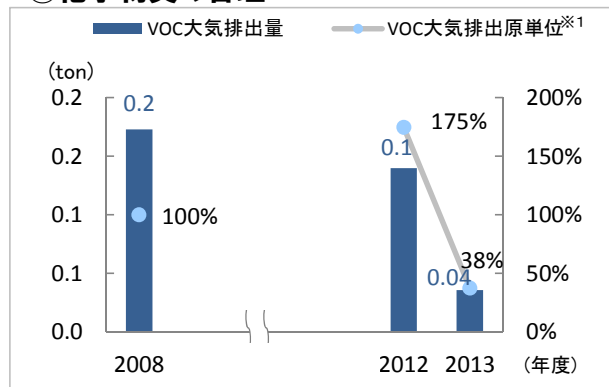
②循環型社会の形成(廃棄物)



③循環型社会の形成(水)



④化学物質の管理



※1 原単位2008年度比:2008年度の生産金額ベースの原単位を100とした場合の割合

※2 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

※3 2013年度より社外再資源化量に熱回収を含んでいます。従来どおり熱回収を含まない場合の再資源化率との差は軽微です。

クボタシーアイ株式会社 堺工場

4.環境パフォーマンス(つづき)

PRTR法対象物質の排出量・移動量の削減(2013年度)

単位: kg/年

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
80	キシレン	36.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
239	有機スズ化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
305	鉛化合物	1	0.0	0.0	0.0	0.0	33.0

5.環境トピックス

- 1)2007年1月、コストダウンを目的として、電気の供給元を関西電力から(株)エネットに切り替えました。
(石津西分工場は2007年1月より) これにより、大幅なコストダウンに成功したものの、CO₂排出係数の違いから、以降計算上のCO₂排出量は増加しました。
(2008年度排出係数: 関西電力 0.000366t-CO₂/kwh、(株)エネット 0.000427t-CO₂/kwh)
- 2)2007年5月に、あずさサステナビリティ(株)による、第三者審査を受審しました。これは、2006年度の、各種パフォーマンスデータの信頼性について評価するものであり、この審査で当工場の各種データの信頼性について高評価をいただきました。
- 3)2008年6月、ISO14001更新審査を受審。「軽微な指摘事項」が2件あったものの、審査登録の継続については問題ないとして、承認を受けました。(審査機関: 日科技連)
- 4)2010年6月、ISO14001定期審査を受け、指摘事項はゼロで審査登録の継続の承認を受けました。
- 5)2011年1月、ISO14001第2回サーベランス時に組織拡大の更新審査を受け、指摘事項はゼロで審査登録の継続の承認を受けました。(審査機関: 日科技連)
- 6)2012年1月、2013年1月ISO14001定期審査(組織拡大変更後2回、3回目)を受け、いずれも指摘事項はゼロで審査登録の継続の承認を受けました。
- 7)2014年2月ISO14001定期審査(第2回サーベランス)を受け、指摘事項はゼロで審査登録の継続の承認を受けました。

6.環境コミュニケーション

① 地域美化活動

名 称 KC堺工場から石津川駅までの歩道、高速道路出口、公園等を清掃しました。

日 付 2013年11月12日

参加人数 約 90名



クボタシーアイ株式会社 堺工場

7. サイトデータ

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	3,672
水使用量	万m ³	1.7

OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	6,337
---------------------	-------------------	-------

主要ばい煙発生施設		-		
項目	単位	規制内容	規制値	測定値
排出ガス	SOx	総量規制・K値規制 ともにm ³ N/h	ばい煙発生施設なし	
	NOx	総量規制:m ³ N/h, 濃度規制:ppm		
	ばいじん	g/m ³ N		

排水量	公共用水域 万m ³	1.6981	
	下水道 万m ³	-	
汚濁負荷量	COD	kg/年	-
	窒素	kg/年	-
	りん	kg/年	-

排水	放流先	項目	単位	排水口名			
				規制値	測定値		
公共用水域		pH	最小値, 最大値	5.8~8.6	6.9, 7.5		
		BOD	mg/ℓ	25	3		
		COD	mg/ℓ	25	5		
		窒素	mg/ℓ	60	0.80		
		りん	mg/ℓ	8	0.03		
		六価クロム	mg/ℓ	0.5	0.02		
		鉛	mg/ℓ	0.1	0.03		
		COD総量規制値	kg/日	-	-		
		窒素総量規制値	kg/日	-	-		
		りん総量規制値	kg/日	-	-		
		下水道		pH	最小値, 最大値	-	-
				BOD	mg/ℓ	-	-
				COD	mg/ℓ	-	-
SS	mg/ℓ			-	-		

廃棄物排出量	t	21
再資源化率	%	99.9%